

# 神谷傳兵衛

語り継ぐ三河の偉人の物語

復刻本「神谷傳兵衛」坂本箕山著より

作画 鬼灯つぼめ

ほおずき





## はじめに

「神谷傳兵衛さんってだあれ？」

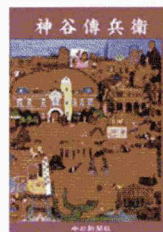
江戸・明治・大正と大きく変わる時代に生き、刈谷の発展にも力を注いだ人で、2022年は傳兵衛さんが亡くなって100年になります。傳兵衛さんは、私にたくさんの出会いを届けてくれました。

2017年に展覧会で見た絵「神谷傳兵衛さんに乾杯！」(齋藤吾朗画伯)では、三河の風景を中心に渋沢栄一や多くの歴史的偉人と乾杯をする傳兵衛さんとの関りが感じられ、傳兵衛さんにますます興味をもちました。

翌年には味岡源太郎さん、大橋純也さんと出会い、現在まで8冊ほどしか発見されていない本『神谷傳兵衛』(坂本箕山著)を刈谷市中央図書館で見つけることができました。味岡さんは大正時代に書かれたこの本を復刻させることに強い思いをもっていて、その後、復刻版『神谷傳兵衛』(通称赤本)を完成させました。そこには傳兵衛さんへの熱いリスペクト(尊敬・感謝・関心)が伝わってきます。味岡さんは刈谷市をはじめと多くの自治体に赤本を寄贈されているので、学校の図書室や公共施設でこの本を目にした人もいるかもしれませんね。

私は傳兵衛さんと刈谷のつながりを多くの人に伝えていきたいと思い、「傳兵衛クラブ刈谷」を立ち上げました。そこで傳兵衛さんの研究で出会った鬼灯つばめさんをお願いして赤本のマンガ版製作を企画しました。刈谷の街の成り立ち、大野一造、大中肇や依佐美送信所鉄塔建設など・・・傳兵衛さんと刈谷の発展のつながりも見えてきます。

「傳兵衛さんってだあれ」にはじまり、多くの人との出会いやつながりが生まれたことに感謝し、多くの方のご指導により、「傳兵衛クラブ刈谷」が成り立つことを心から感謝申し上げます。



2022年9月4日

「傳兵衛クラブ刈谷」  
主宰 川口孝嗣

・このマンガ本製作は鬼灯つばめさんに格別のご協力を賜り「かりや夢ファンド事業」の採択をいただき諸事業の一環として行っています。

・「傳兵衛クラブ刈谷」の勉強会では、齋藤吾朗様、味岡源太郎様、大橋純也様のご支援、並びに新實守様には三河鉄道のご講義、多くの資料提供をいただきました。

・マンガ誌上には鬼灯つばめさんのご提案で「三河西尾の四人衆」として描いていただきました。皆様のご厚情に御礼申し上げます。



# 登場人物紹介

余計な

作者の親切心から説明が細か過ぎる

傳兵衛の兄

神谷桂助

(1846年-1912年)

頼れるお兄さん  
体格がいい  
東京で奉公している  
なぜ家督を  
弟に譲ったのは謎



桂助の娘 傳兵衛の養女  
神谷傳蔵の妻 (1877年生)

神谷誠子

夫の三年間不在も  
ものともしない  
傳兵衛を陰で支える  
しつかり者の養女



近藤利兵衛 (幼名松熊岩吉)

(1859年-1919年)

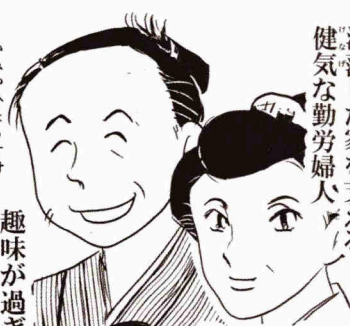
並ぶと傳兵衛より身長が少し高い  
東京日本橋近藤利兵衛商店三代目  
蜂印香竄葡萄酒を独占販売し  
傳兵衛と共に実業家になる  
傳兵衛の生涯の親友で事業協力者  
仕事一筋で養父母孝行は欠かさない



傳兵衛の母 神谷イシ

(1818年-1888年)

傳兵衛には厳しいが  
本当は愛情いっぱい  
没落した家を支える  
健気な勤労婦人



誠子の夫

新婚三日目に  
フランスに行かされる  
真面目で勤勉な婿養子  
後の二代目神谷傳兵衛



神谷傳蔵

(1870年-1936年)

神谷傳兵衛

(1856年-1922年)

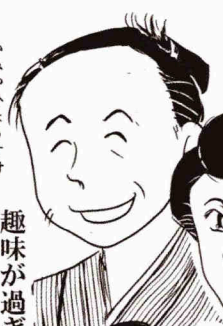
八歳の時から酒屋を夢見て商売に勤しむ  
国産ワインを製造しワイン王として成功し  
大実業家になったが社会貢献も積極的に行った  
50歳代で糖尿病になり健康には気を付けている

(幼名神谷松太郎)



神谷兵助

趣味が過ぎるお人好しで  
豪商の家を没落させた  
俳句をたしなむ



傳兵衛の父

俳号は「香竄(こうざん)」  
(1810年-1874年)

ユキの夫

品川徳太郎



(幼名神谷銀次郎重行)

宇都宮二郎

(1834年-1902年)

明治時代で言うなら  
東京大学の化学の教授  
という立場の人  
親友が福沢諭吉事実  
上司が伊藤博文本当  
知人に勝海舟(マジで)

働き者の傳兵衛が大好き  
病床の傳兵衛にワインを勧めた



フレッツ商会  
経営者の  
フランス人  
WATSU



蜂印香竄葡萄酒

(1881年生)



傳兵衛が造った甘みのあるブドウ酒  
健全滋養に大変良い

香竄 隠しても隠し切れない  
豊かなかぐわしい香り

親の恩を忘れない為に傳兵衛が父親の俳号  
こうざんから名付けた葡萄酒(ワイン)



敏子

傳兵衛の四番目?の妻

この葡萄酒が人気になり当時日本では  
やたらと香竄葡萄酒と名のついたものが出回り  
販売を担っていた近藤利兵衛が偽物対策に苦労した

※竄と鼠の字は似ていますが意味が違います。たまに間違える人もいます。

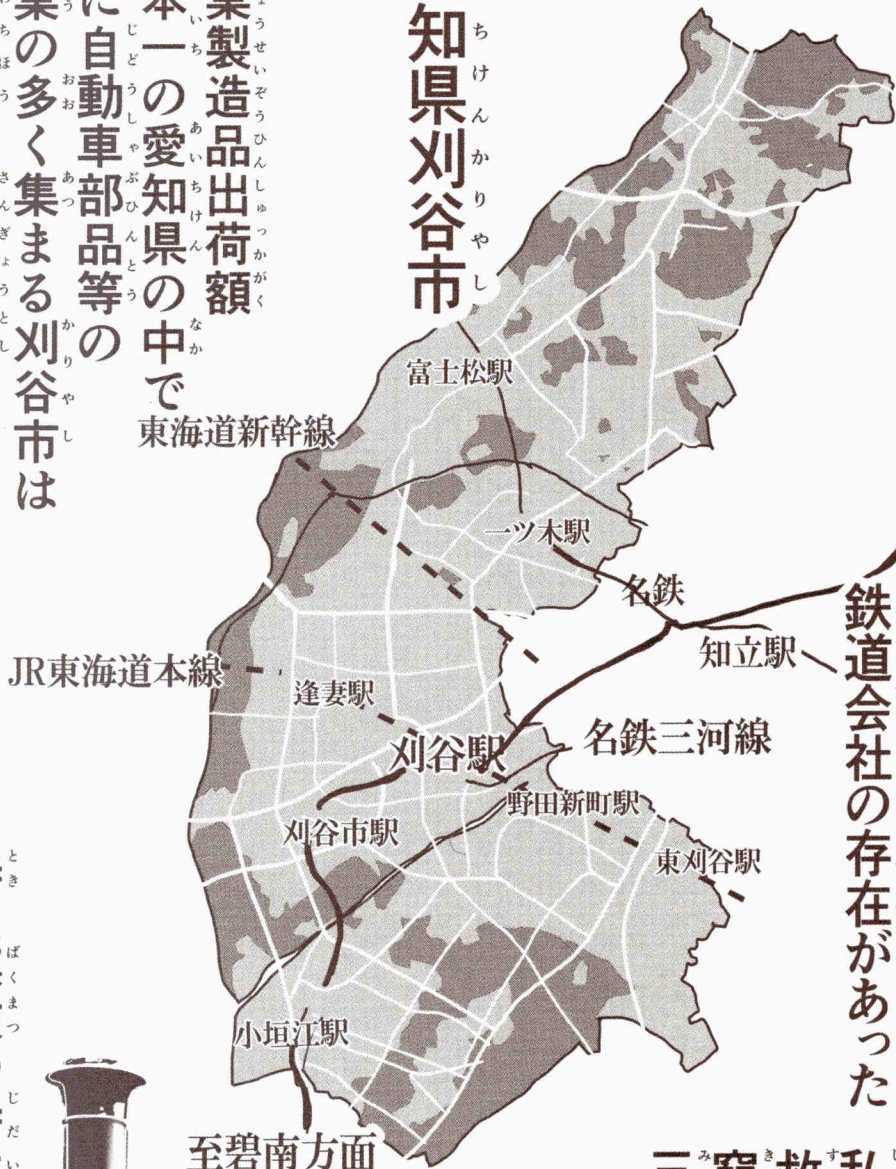
幼少の傳兵衛の  
廃品回収品から  
おねたりする  
ちやつかり者

廃品回収業を営む  
八歳の傳兵衛に  
商いを教える



工業製造品出荷額  
日本一の愛知県の中で  
特に自動車部品等の  
企業の多く集まる刈谷市は  
三河地方の産業都市として  
近代目覚ましい発展を遂げている

# 愛知県刈谷市



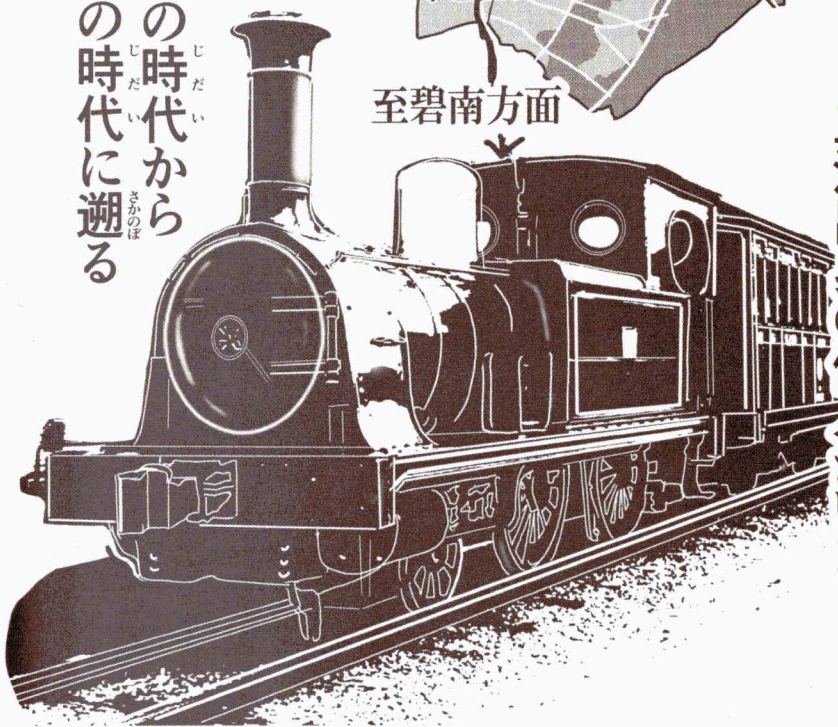
至豊田方面

その産業の発展の陰に  
知立から刈谷を経由して  
碧南迄の間を結んだ  
鉄道会社の存在があった

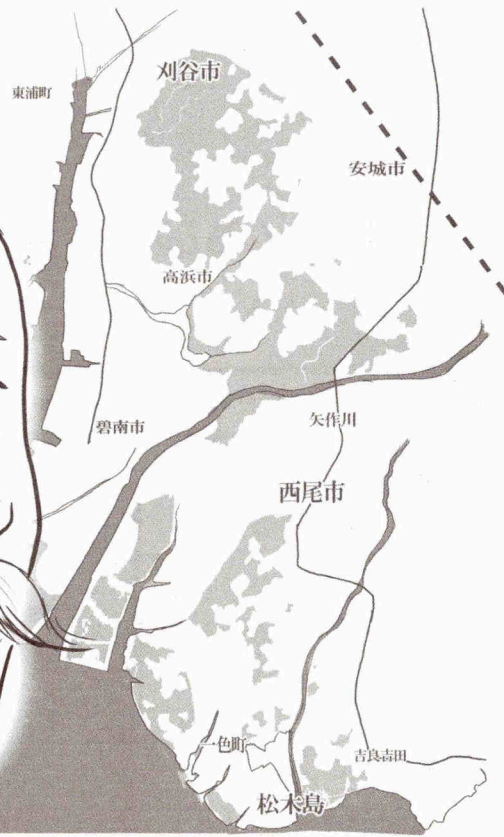
時は幕末の時代から  
明治大正の時代に遡る

至碧南方面

その鉄道会社が  
瀕死の時に  
三河の将来の発展の為に  
私財を投げ出し  
救いの手を差し伸べ  
窮地を救った  
三河出身の偉人がいた







# かみやんでんべえ 神谷傳兵衛

語り継ぐ三河の偉人の物語

復刻本「神谷傳兵衛」坂本箕山著より

みかわこくまつきじまむら  
三河国松木島村

げんざい にしおしいしきちようまつきじま  
現在の西尾市一色町松木島

あんせい ねん がつ じち  
安政三年(1856年)二月十二日早朝

しろ うめ はな が さきほこり  
白い梅の花が咲きほこり  
その花びらが  
春の訪れを告げる  
風に乗って舞う中

とち の しょうしょう かみやひょうすけ  
土地の豪商、神谷兵助に  
ろくばんめ だんじ たんじょう  
六番目の男児が誕生した

なまえ かみやまつたろう  
名前を神谷松太郎  
のち かみやでんべえ  
(後の神谷傳兵衛)

ほおずき  
作画 鬼灯つばめ







なか  
お腹がすいたなア

ぶんぎゆう  
文久三年

1864年

じろろ

種を取ります  
棉から

まつたろう  
松太郎は  
びんぼう  
貧乏な家を助けるために  
まいにあいえ  
毎日家の手伝いをして  
暮らしていた

かみやまつたろう  
神谷松太郎 8歳

まつたろう  
松太郎  
お腹がすいたの  
かい

※棉(収穫され植物状態のもの)  
綿(棉から種を取り除き繊維になったもの)

ほん様の  
ご飯を食べるかい

おかアさん  
おいしい

しせい  
姿勢をただして  
あ  
お上がるのですよ

お仏壇のわずかな  
お供えのご飯が  
まつたろう  
松太郎の飢えを  
しのいでいた

硬くはった  
ゴハンに  
お湯をかけ  
頂きます

せんぞさま  
ご先祖様  
そな  
お供えを  
ちやうだい  
頂戴いたします



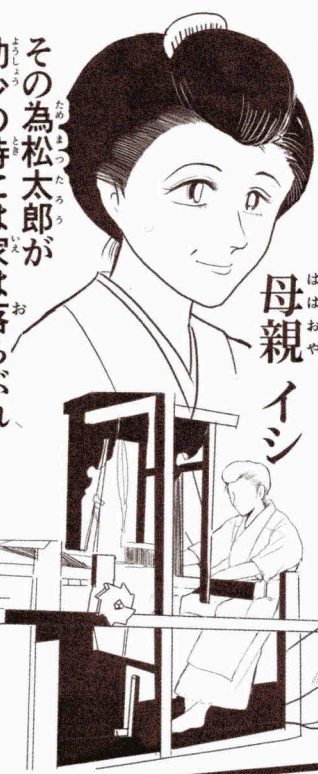
松太郎の家は五人家族

父親 兵助



父親の兵助は働かず  
趣味が多く  
俳句や飼育養魚を楽しみ  
人にもものをあげてしまう  
お人好しだった

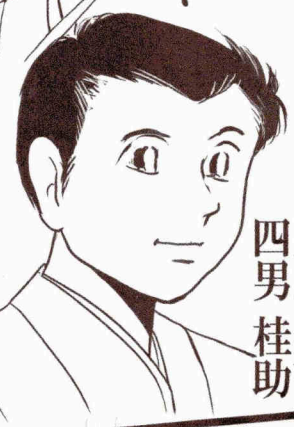
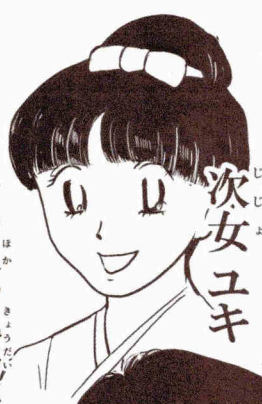
母親 イシ



その為松太郎が  
幼少の時には家は落ちぶれ  
貧乏暮らしとなり  
母親のイシが日夜働いて  
家計を支えていた

阿久比に嫁いだ

次女 ユキ



四男 桂助

東京に働きに出ている

※その他の兄弟は既に亡くなっていました

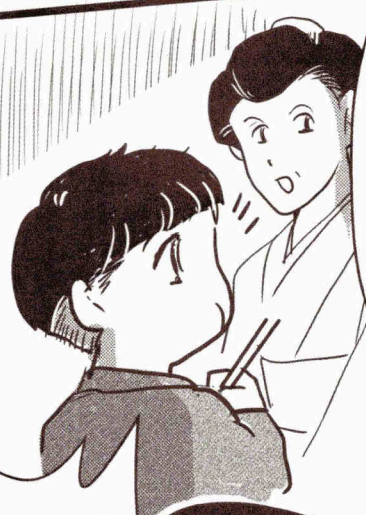
松太郎は元々利発な  
子供だった

五才の時に  
家の手伝いをしている  
松太郎の将来を心配し  
イシが実家の親に頼んで  
松太郎に教育を受けさせたが

難しい算術も得意だった

父親 兵助

松太郎  
ユキの所に行くけど  
一緒に行くか

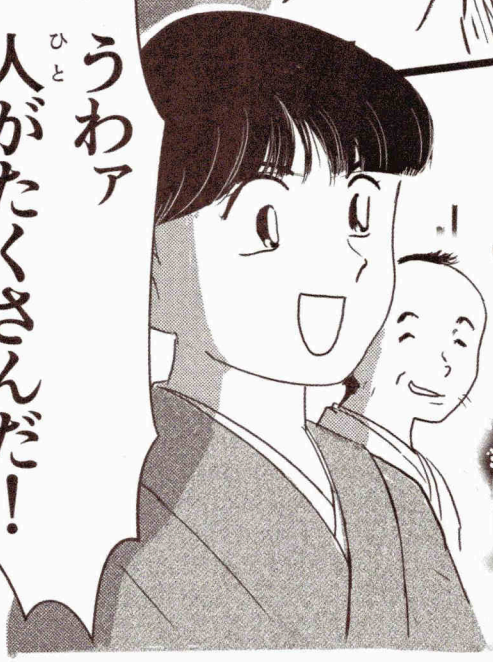


知多半島  
半田亀崎

松太郎は  
父親と一緒に  
嫁いで行った姉の住む  
当時の阿久比町に行くために

途中で半田亀崎の  
酒造家の多い所に  
立ち寄った

うわア  
人がたくさんだ!





# 酒屋

酒屋つてのは  
あんな殿様みたいに  
なれるんだア

おらアも酒屋になつて  
大名暮らしをしてみてえ

お義父さん  
松太郎  
よく来て  
下さいました

知多半島阿久比村  
次女ユキの嫁ぎ先  
品川徳太郎宅

松太郎は  
商いを覚えるといいね

よしよし  
松太郎は  
かめい  
なア  
ユキの夫 品川徳太郎

ユキ  
お腹  
すた  
ゴハン  
よんでくれん  
お茶も  
ーん  
またア!

オマは  
酒屋に  
ユキ

それから松太郎は  
酒屋になりたい一心で  
まずは酒樽を作る  
桶屋に見習いとして  
就職

しかしまだ八歳の  
松太郎には力も無く  
桶屋の仕事は務まらず  
阿久比の  
品川徳太郎の所で  
クズを拾って売る

松太郎  
いぼんの襟を  
買いたいでん  
ちよと分けてん  
利益があると  
姉と分ける  
正直者だった

松太郎十五歳  
明治4年(1871年)  
名古屋や三重大阪まで商売に行く

大名に  
一歩近づくと  
我が子かな  
香蔵心の俳句  
一回出来たよ...  
資本金を父親に返し  
残ったお金で仕入れ  
行商に出向く

仕入れた  
産物を酒屋で売る  
酒屋でこぼれたフカシ  
(材料のクズ)に  
目をつける

洗ったフカシを  
お菓子の材料として  
菓子屋に売る

ボロ買いの次は  
父親から資本金を  
借りて  
三河の産物を  
仕入れて行商をした  
松太郎十二歳  
明治元年(1868年)





しかし自分の商売が順調になると

今日も良く取れた

遊びにも興じて投網に凝るようになってしまった

オラアは酒屋になるって決めてんだ

わりいなア

松、お前、うちの娘と一緒にになって漁師やらんか



酒屋? 魚屋? なくて?



土手で眠りした松太郎



今日は疲れたなアここいらでチョット休んでいこう

オラアの網がない!! 取った魚が無くなっていた



只今戻りました



オラアの網だ!



それ懲りたらもう漁には出るな

それは天狗様の仕業じゃ

おかアさん!

激おこだああああ

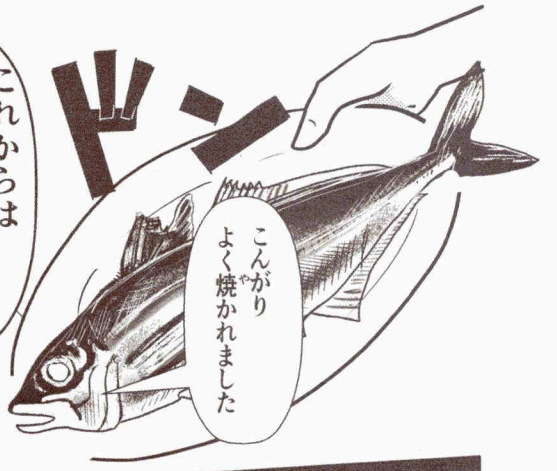
反省しています



参ったなア

網が無いと明日から漁が出来なくなるぞ





こんがり  
よく焼かれました

これからは  
無駄に取ってきた  
事を詫びて

魚は骨まで喰らって  
腹の中でちやんと  
葬れ

ハイ

いただきます

この事は傳兵衛の  
教訓となつて  
一生守られた

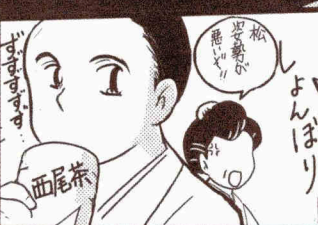
順調に  
見えたような  
松太郎の商いは  
無理な投資で  
損失を招き



ウソ勝に  
竹輪を  
馬鹿取らる

更には有名な  
嘘つきに  
騙されて  
稼いだお金が  
底をついて  
しまった

オラアには  
商いの才能が  
ないのかなア



丁度その頃  
東京で  
働いていた  
兄の桂助が帰省  
しました

よし!  
松太郎  
横浜で  
働いて来い!



なんですと!

その後  
松太郎は

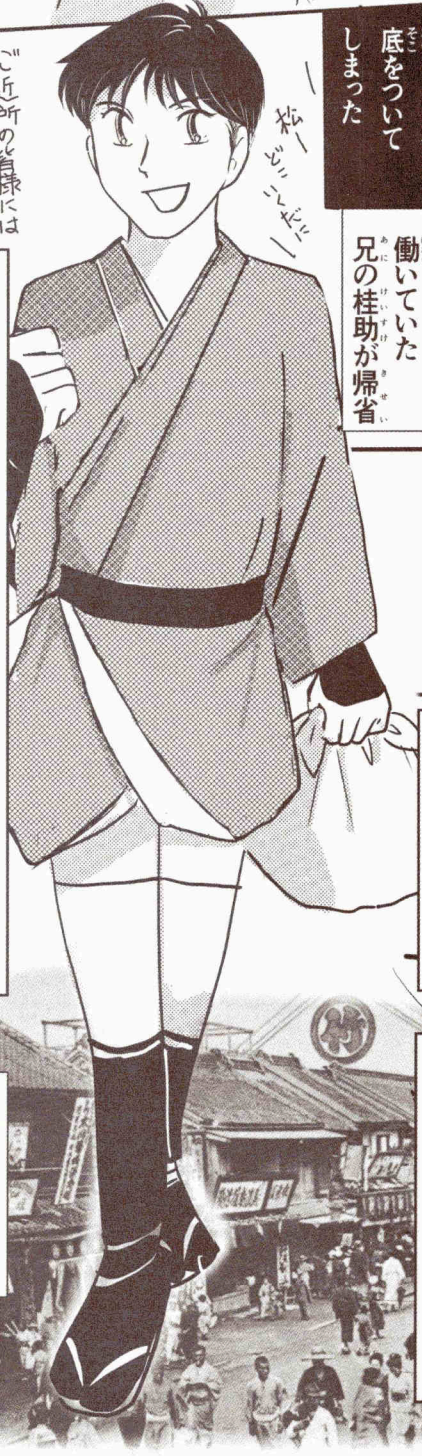


母親から  
三両を借りて

母イシが用意した  
新しい着物を身につけて



松太郎は一人  
横浜へと旅立った



松太郎  
まつたろう  
さいめいじ  
明治6年(1873年)四月

よこはま  
横浜





横浜に住んでいる  
兄の知人に世話になり  
運送会社で働いて後  
フランス人が経営する  
酒類製造販売業に勤める事が出来た

洋酒醸造も覚え  
よく働く松太郎に  
経営者のフランス人も  
一目置くようになった

et travailleur  
Je l'aime beaucoup.  
J'adore matsu.



松太郎は  
突然体調を崩して  
寝込んでしまった

しかしある日

# フレッツ商會

すっかり  
衰弱した松太郎



腹が痛い...  
痩せ過ぎる事を専門用語で羸瘦と言います

見かねた  
フランス人  
経営者が  
お見舞いに  
持って来たもの

それはフランスの  
葡萄酒でした



明治当初の輸入葡萄酒は  
日本人には馴染みの少ない  
大変高価なお酒でした

Le vin est bon pour vous, alors buvez-le.



何を  
言っているのか  
さっぱり  
行かない  
が

頷く  
松太郎

現代では二十歳未満の青少年者の  
飲酒は固く禁じられています



葡萄酒を飲んだ  
松太郎は（ヘーヅの都合で）  
劇的に体調が回復した

日本人の口に合う  
身体にいい葡萄酒を作ろう！

それは松太郎が神谷傳兵衛として  
後のワイン王となる出来事だった

それから  
しばらくして  
フランス人は  
故郷に帰国して



松太郎十八歳

この頃  
父親の兵助の  
訃報が届いた

父親亡き後  
松太郎が  
神谷家より代々  
受け継がれた  
「傳兵衛」という名前を  
継承する事となった

明治7年  
(1874年)

# かみやでんべえ 神谷傳兵衛

傳兵衛と名前を改めた  
松太郎は十九歳の春  
東京の縁者を頼り  
品川の酒屋で  
働く事になった



傳兵衛は大変真面目に働いた

働きながら神田にある学習塾に通い、勉強にも勤しんだ

自らが考案した酒樽を大八車に載せて日本酒を売り歩いた

ある日坂道に差し掛かった時に

酒樽もろとも売り物の日本酒まで台無しになり

弁償する事となった

この先また弁償する事態が起これたら折角貯めた金は残らない

このまま人に雇われていたのでは浮かぶ瀬がない

明治13年(1880年)

# みかはや銘酒店開店

(後の神谷バーになる)

独立するぞ

傳兵衛 24歳

傳兵衛は独立して自らが酒屋を経営することを決意して

浅草花川戸に自分の店を構えた

傳兵衛はまだ人の行き来がなかつた浅草の土地の将来性を見抜き

お酒の一杯売りの店を開いた

お酒の一杯売りの店を開いた

なかつた時代に傳兵衛の店はとても繁盛した



遠路はるばる三河地方からもご来店

# カタ



亡き父の俳号「香竄」から  
蜂印香竄葡萄酒と名付けた  
傳兵衛の葡萄酒は  
甘く口当たりもよく  
浅草界限でも評判になった



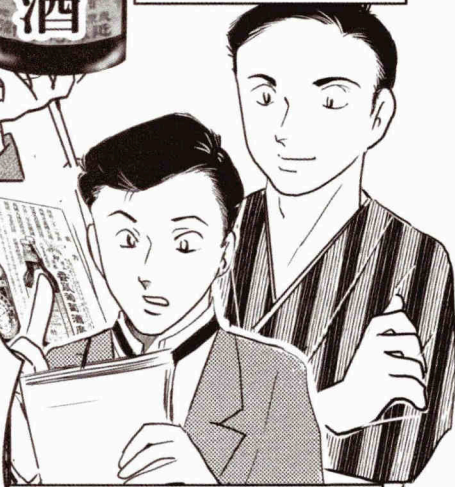
はちじるしこうざんぶどうしゆ  
**蜂印香竄葡萄酒**

# 近藤利兵衛

近藤利兵衛は  
傳兵衛に会い  
その生い立ちや  
葡萄酒完成までの  
苦労話に感銘して

この葡萄酒を  
日本一に見せる  
傳兵衛の  
葡萄酒の販売を  
一手に引き受けた

その葡萄酒の味に  
魅せられた  
一人の男がいた



傳兵衛の作った  
葡萄酒は  
当時奇抜な  
マーケティングを  
仕掛けた  
近藤利兵衛の手腕で  
たちまち全国で  
大人気となった

堅苦しい新聞に  
大々的に広告を打つ！  
それだけでも目を引く

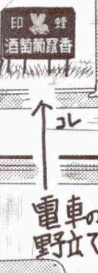


ポスターも  
きれいな女性を使って  
美容と滋養にいいと  
アピールするんだ

東京から下関の各駅に  
看板広告を出して  
日本中の人に知らせよう



鉄道利用客の  
視野も利用するんだ！



電車の車窓から見える  
野立看板を営業しま

近藤利兵衛の編み出した宣伝方法は明治時代当初では斬新なものばかりで  
真似をする業者も増えたほどです。この二人の関係は生涯実の兄弟以上でした。

傳兵衛は日本酒の  
一杯売りをする傍ら  
洋酒の研究に明け暮れた

初めの妻  
離縁

二人目の  
妻と子供  
死別

三人目の  
妻

同居八年

子が  
出来ない

しかし、  
その成功とは  
裏腹にも  
傳兵衛の家庭は  
決して良いとは  
言えなかった

俺には  
子宝は  
ないんだ  
ろうか

よし！  
俺の娘を  
くれてやらア

マジすか？

傳兵衛が三十六歳の時  
兄の桂助の娘を養女に迎えた

明治24年(1891年)

かみやのぶこ  
**神谷誠子十四歳**





**明治27年(1894年)**  
 明治天皇御成婚25周年に  
 宮内庁に山梨で造られた  
 国産の葡萄酒が贈られ  
 大きな話題となった

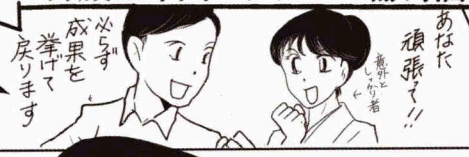
**大黒天印甲斐産葡萄酒**



やはり  
 日本人の飲む葡萄酒は  
 日本で造らなければ!

しかし俺には  
 本場フランスの  
 葡萄酒に精通した  
 技術者がいない  
**どうか!!**

**傳藏三年間フランスへ葡萄酒製造修行の旅**



傳兵衛は  
 傳藏を  
 技術者として  
 フランスで  
 修行させる  
 事にした



**傳藏25歳**

勤勉で研究好き  
 小林傳藏を  
 誠子の夫に迎えて  
 養嗣子にした  
 これがのちの二代目  
 神谷傳兵衛である

**誠子18歳**

養嗣子=婿養子

傳藏がフランスで  
 修行している間  
 傳兵衛は  
 化学の第一人者  
 宇都宮二郎と共に  
 酒類醸造試験場を開設

糖密原料酒醸造の  
 発明で特許を取った

糖密原料酒醸造の  
 発明

糖密原料酒醸造の  
 発明

**宇都宮二郎61歳**

唆るよ  
**これは!**

耐火煉瓦

ですか?

いずれ君も  
 必要になる  
 知識は持って  
 おきたまえ

**神谷傳兵衛の宿論**

人口が増加してきて  
 主食の米を酒の原料にすると  
 米不足の時に困る  
 酒を畑の作物で作れば  
 米不足にならない  
 のではないのか  
 傳兵衛は常に  
 先々の事を考えて  
 絶えず研究に  
 勤しんだ

大正7年(1918年)日露戦争の後で傳兵衛の宿論通り  
 全国的な米不足になり騒動になりました。  
 この騒動では傳兵衛自身も人々に救済を行っています。

養嗣子傳藏が帰国  
 それから六年  
 明治36年(1903年)  
 葡萄酒になる苗の  
 植え付け場所から  
 探して苗を植え始め  
 傳兵衛念願の  
 葡萄酒醸造所  
 シヤトーカミヤ  
 (現在の牛久シヤトー)が  
 茨木県牛久市に完成した





神谷傳兵衛は  
自社の葡萄酒醸造を  
手掛ける前から  
常に様々な事に  
立ち向かう人だった

剣道は  
独立する前に  
山岡鉄舟に師事

自分の故郷松木島の

学校や神社仏閣に寄贈



父親兵助の様に  
困った人には  
手を差し伸べ  
援助する姿勢を  
貫きながら

母親イシの様に  
堅実で物を  
無駄にしない  
発想と  
着眼点を持って

困難にも  
打ち勝って  
いった

自社の従業員の  
生活も保証

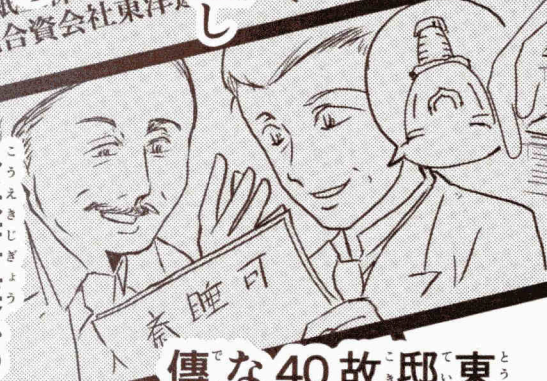
災害支援と  
多くの寄付や  
義援金

国税の矛盾を正し



数多くの会社の  
設立と援助  
銀行 石油 谷 製薬 食品 東京 日本 北海  
株式会社 印刷 布 神谷 火 株式 東洋  
上 土 布 神 帝 火 株式 東洋

公益事業への  
参画と寄付



故郷の三河を  
忘れていた  
わけではなかった

東京に大きな  
邸宅を構え  
故郷三河を離れて  
40年近くに  
なろうとした  
傳兵衛だったが

明治45年(1912年)



すべてが順風満帆  
とは言えないが  
ワイン王として  
成功した傳兵衛は  
今では  
政財界からも  
一目置かれる  
大実業家となっていた

碧海軽便鉄道計画  
発起人代表  
才賀藤吉  
三浦逸平

刈谷村から碧南の大浜まで  
鉄道を敷きたいので  
お金の支援をお願いします

軽便鉄道の計画だど?







三河鉄道 大正3年(1914年)営業開始

後の名古屋鉄道三河線に変わる鉄道会社

# ところが開業後に 三河鉄道存続の危機到来!

社長が急死し役員不在のまま運営を続けて  
借金に利息がついてさらに借金が増え  
役員も総辞職したため経営困難に  
なってしまった



その頃  
三河鉄道は  
借金  
借金  
と言いつつ  
走っている  
噂されていた

それまでは  
取締役役員の  
一人だった  
傳兵衛

大正5年(1916年)4月  
東京在住のまま  
神谷傳兵衛が  
三河鉄道の社長に就任

## 私になる!

発起人  
才賀藤吉  
三浦逸平と共に  
取締役の一人として  
資金援助も行った



大赤字じゃないか!

三河鉄道  
決算報告書

なんてことだ!

# 三河鉄道の社長に



私の私財をもつて

三河鉄道の

借金は

全部返済させる

早急に資金を集めなくてはならない

三河鉄道は粘土の取れる越戸まで延伸しなくては利益を生まない

愛知三河の資金援助者のリストを作ってくれ

もちろん私が直談判に行く

車の用意を

刈谷高浜碧南西尾

傳兵衛は資金援助の協力を求める為に

東京から車で

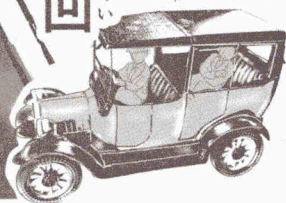
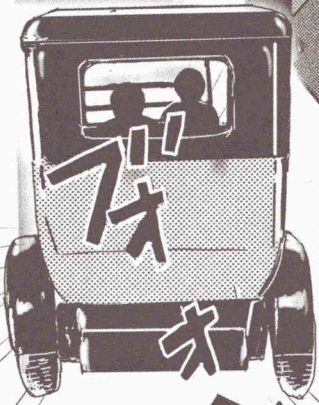
三河地方の各所に訪れた

その数何と62回

神谷傳兵衛を動かしたものは三河の人達の利便と産業の発展の促進ただそれだけだった

なんとしても三河鉄道を救わなくては

三河の産業発展の未来に関わる





今ここで

三河鉄道を

つぶしては

ならんのです

どうか皆さんの  
お力をお貸しください

必ず経営を  
良くして見せます

おい!  
となりの村の奴も  
呼べ!

金の出せそうな奴を  
全員集めろ

神谷さん  
あんたには負けたよ

なるべく  
大勢に声を  
かけるんだ

オレも  
親戚すじに  
頼んでみるわ

わひんとこがれも  
ぜぜをだすでのお

頼むぜん

必ず  
お約束します

こうして  
傳兵衛他  
三河鉄道役員  
の真摯な姿に  
人々は  
心を打たれ  
傳兵衛は  
資金を集める  
事が出来た

### 東洋耐火煉瓦

三河の産業の  
礎を築き上げた

その後は経営も安定し  
株主には配当も出来る様になった  
傳兵衛は翌年病で倒れたが

回復してのち  
耐火煉瓦工場と  
粘土会社を  
三河鉄道沿線に  
作り

しかし大正10年

傳兵衛は  
再び病に倒れる



三河鉄道が立ち直り  
三河地方の産業が  
これから先発展する基盤を  
ようやく完成させた矢先

大正十一年(1922年)  
四月二十四日  
神谷傳兵衛は  
この世を去った

数多の試練に  
負けなかつた  
傳兵衛だつたが  
病に打ち勝つことは  
叶わなかつた

「ご許りイヤ強引の如いつて凄まじい、去る廿三日には郡中庭に別場を設け、福島可輔氏や徳倉廣吉氏などのお歴々を來賓に華々しく矢場開きまでやつた云ふから其勢の程も略想像がつく云ふものだ、それ等のグループで先づ射士として人前へ出られるのは御大郡長以下倉内彌三郎、林藤太郎の兩位位か、爾餘の御定運には大村首領、村松謙事、中村會計、今村兵衛、牧野衛生などがあるが何れも光榮ある新入學生の部に属するもので兵ヶツと矢を放つ毎に射手の位置も矢の行衛も走馬燈のやうに轉々しやうと云ふ代物、矢拾の煩を見兼た郡長が「寶探の流石術」の聲を聞いたのにも亦放る成だ、加藤勲業も時々やるが之は又奇想天外的を無視する事感しく郡長官舎の台所邊までも御見舞しやうと云ふ豪傑振りを發揮すとか、青葉とよが初夜前に安太平な都夜所の一隅に生れた弓術俱樂部の消息をきつて書くの通

本郡出身の酒造王

神谷傳兵衛氏死去

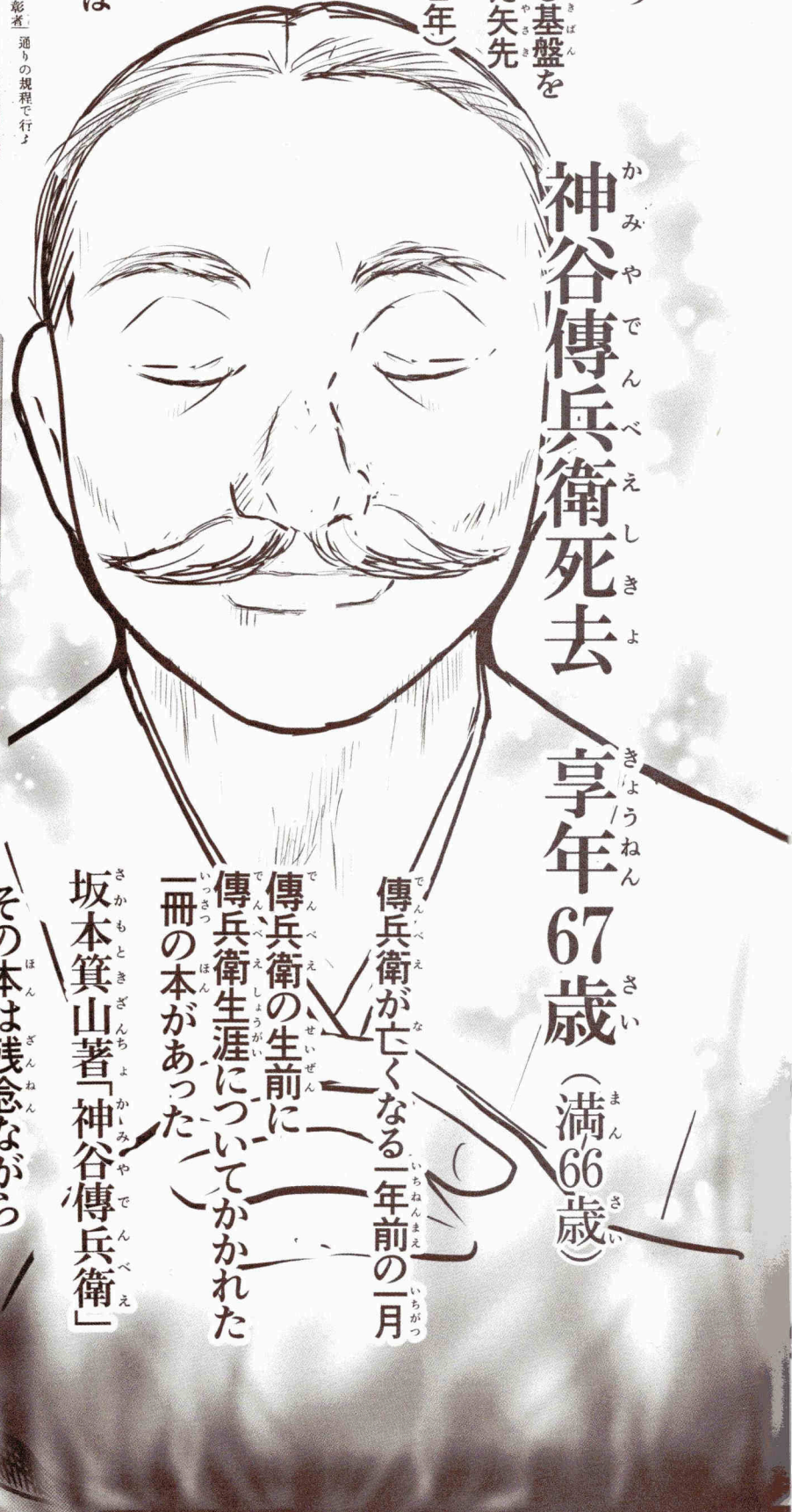
葬儀は明廿九日東京で  
宮内省より花瓶を下賜

佐久島辨天

の開帳は七月廿日

藝妓訓話

廿四日向春軒で  
岡島工場布教師



神谷傳兵衛死去

享年67歳 (満66歳)

傳兵衛が亡くなる二年前の二月

傳兵衛の生前に

傳兵衛生涯についてかかれた一冊の本があつた

坂本箕山著「神谷傳兵衛」

その本は残念ながら  
非売品とされ  
手にした者は少なかつた

更には翌年

大正12年(1923年)

関東大震災が起こり

傳兵衛に関するものも

数多く焼失してしまつた



大正11年4月28日付三州タイムズ  
※命日と名前に誤植がある  
新聞資料提供 齋藤吾朗

香取葡萄酒本舖神谷商店主  
神谷傳兵衛氏は昨年以來、  
氣に罹り東京大學病院の眞  
御島居兩醫學士を主治醫と  
して治療中であつたが廿五  
日午後四時十五分遂に死去  
した。死因は肺炎に達する  
や氏の功勞を思召され特旨  
を以て從六位に叙せられた。  
葬儀は明廿九日午後二時東  
京淺草東本願寺で執行す。  
氏は本郡松木島の出身で安  
政二年に生れ本年六十八歳  
氏は夙に洋酒の醸造に志し  
早く獨學を去つて斯界に身  
を投じて今日の大を成した  
もので現に醸造業以外にも  
各種事業に關係し居り嘗て  
大正八年授章を授けられ  
たこともある位で郷黨で  
は氏を以て自村の世襲と  
云つて欽慕してゐた廿四日  
には宮内省から御紋章付銀



傳兵衛の死後

豊田喜一郎

豊田佐吉

傳兵衛が予見した通り

三河鉄道と東海道本線の  
両方の駅のある刈谷市は  
特に交通アクセスの良さの  
恩恵を受け産業都市と変貌した

豊田利三郎

刈谷市から  
豊田自動車織機も誕生し  
自動車産業も発展していった

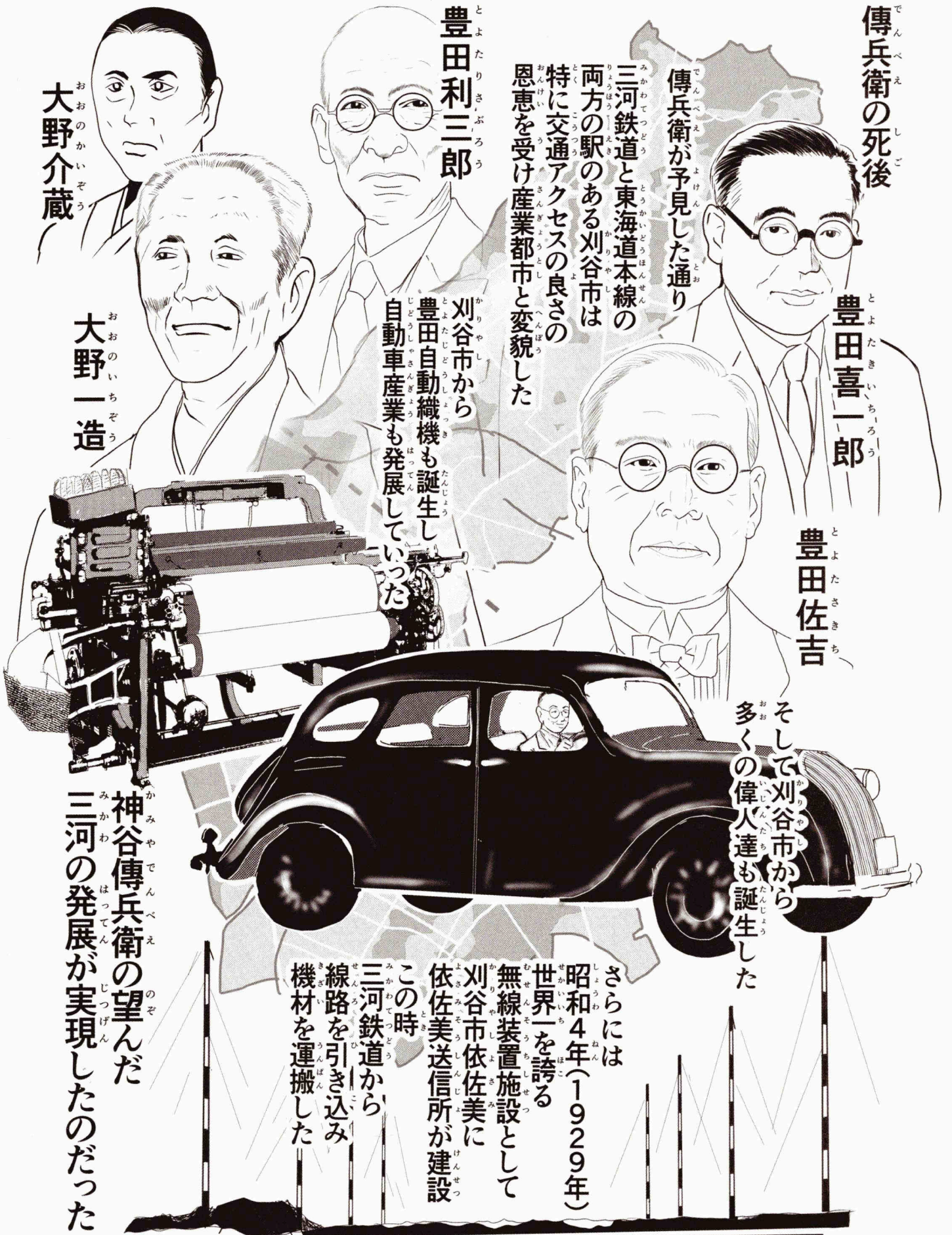
大野介蔵

大野一造

そして刈谷市から  
多くの偉人達も誕生した

神谷傳兵衛の望んだ  
三河の発展が実現したのだった

さらには  
昭和4年(1929年)  
世界一を誇る  
無線装置施設として  
刈谷市依佐美に  
依佐美送信所が建設  
この時  
三河鉄道から  
線路を引き込み  
機材を運搬した





三河鉄道神谷驛誕生

大正15年  
(1926年)

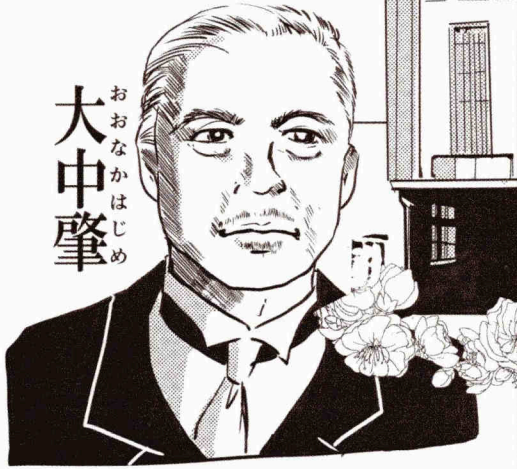
オラアの町に  
立派な駅が出来たぞ

便利になるのオ  
神谷傳兵衛  
バンザイ!

三河鉄道は傳兵衛の故郷  
一色町松木島まで延伸し

この松木島に  
神谷傳兵衛の  
功績を讃える駅と  
立派な駅舎が建立した

設計者は  
刈谷市の  
建築家



おおなかはじめ  
大中肇

しかし時代と共に人々の記憶から神谷傳兵衛は消えつつあった

昭和16年(1941年)  
名古屋鉄道と合併

三河鉄道の名前が消える

昭和24年(1949年)  
駅名変更

神谷駅の名前が消える

神谷駅→松木島駅

昭和53年(1978年)  
老朽化の為駅舎解体

平成16年(2004年)  
三河線一部廃線

玉津浦駅→松木島駅間撤去

それは皮肉にも

神谷傳兵衛が強く望んだ

三河の発展が  
自動車産業を促進させ

神谷傳兵衛を顕彰する

駅舎と路線をこの世から  
消してしまふ結果となった

こんなに立派な駅舎を  
壊すなんて  
本当に残念だ

名古屋鉄道職員として  
定年まで

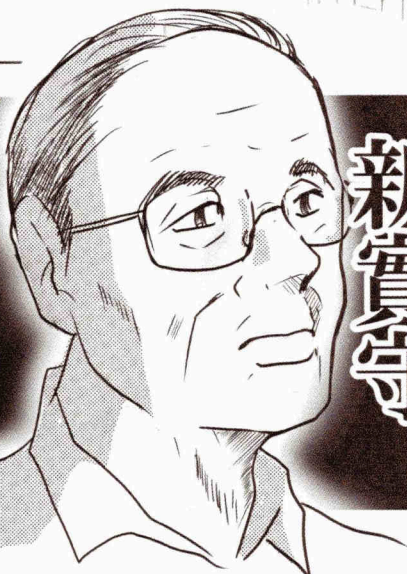
三河線に関わった

神谷傳兵衛と

同じ郷里

西尾市一色町出身

新實守



新實守は

松木島駅の元になった

神谷傳兵衛が

どういう人だったのか  
個人的に調べていた



昭和20年代

あの鉄道はなア

郷土の  
すごい偉い人が

敷いてくれたんだぞ

絶対に忘れるんじやネエぞ

小さい頃に  
父親から聞かされた事を  
大切に覚えて  
いる人がいた

西尾市在住

赤絵の画家と名高い

斎藤吾朗



郷土西尾市の歴史に詳しく  
神谷傳兵衛の功績にも  
以前から注目していた一人である

平成28年(2016年)

東京浅草

有難うございました

こちらのほうこそ  
おかげで良い取引が出来ました



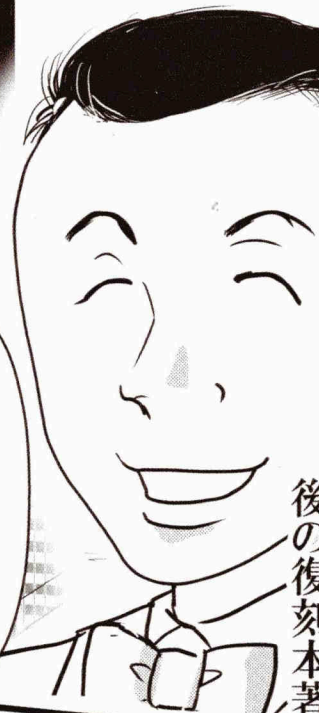


西尾市出身の実業家

あじおかげんたろう

# 味岡源太郎

後の復刻本著者



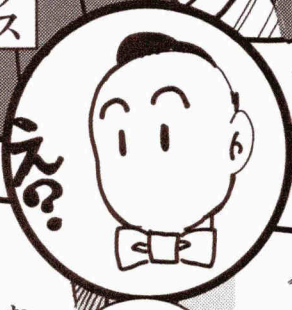
弊社の創業者も  
西尾市一色町の  
出身なんですよ

神谷傳兵衛  
という人です



オエノンホールディングス  
代表取締役社長

西永裕司



名古屋  
味岡の事務所



大橋君  
神谷傳兵衛って  
かなりすごい  
人物だぞ!

齋藤吾朗先生なら  
御存じかも  
知れませんか

# 大橋純也

西尾市出身—後の復刻本編集者



ぱんこん

西尾市

齋藤吾朗アトリエ



だから前にも  
教えたじゃないですか



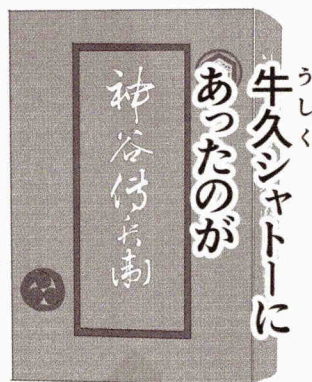
県立  
西尾高校の  
大先輩

後輩



味岡源太郎は  
齋藤吾朗と共に  
神谷傳兵衛の  
葡萄園のあった  
茨城県牛久市に  
出向いた





牛久シャトーに

あったのが

神谷伝兵衛

坂本箕山著  
「神谷傳兵衛」

# 三河西尾四人衆が集結した

そして  
齋藤吾朗は  
神谷傳兵衛を題材に  
200号の洋画の  
大作に挑んだ

神谷傳兵衛に  
関わった人を全員  
描ききってみせる

神谷傳兵衛の足跡を世に伝える為

神谷傳兵衛を独自で  
調べていた新實守は  
鉄道に関わった視点から  
その復刻本の寄稿文を  
執筆した

この偉大な三河鉄道の  
救世主の事を  
多くの人に伝えたい

「神谷傳兵衛さんに乾杯！」

齋藤吾朗の大作の表紙をワイン色に飾った

神谷傳兵衛(坂本箕山著)

「天下後世に伝えたい偉人伝」

復刻本著者 味岡源太郎

編集者 大橋純也

平成30年それぞれの  
熱い想いが込められた

奇跡の復刻本が誕生した

その後、探し求めて  
同じ本を手に入れた味岡源太郎は  
この本を熟読し決意した

大橋純也は  
味岡源太郎と共に  
復刻本の編集に  
力を注いだ

この本を復刻させて  
神谷傳兵衛を世に  
知らせなくては！

なんとしても  
復刻本を一つも間違えず  
正確に完成させなくては！





平成30年11月23日

かみやでんべえ ふっこくぼんしゅっぱんきねんしきてん

# 「神谷傳兵衛」復刻本出版記念式典

復刻本著者

味岡源太郎

浅草にあった会社の土地建物を  
売りに出した時に



G・AJIOKA

創業者の出身と同じ

愛知県西尾市の会社という縁から  
買って下さったのが東京にある  
傳兵衛さんの会社でした

西尾市出身の

江戸時代に生まれた人が  
突然私の前に現れました

私は傳兵衛さんの事を  
全く知りませんでした

傳兵衛さんを調べていくうちに  
驚愕な事がいろいろわかりました

傳兵衛さんの事を書いた

坂本箕山の本は当時非売品でした

100年前のまま

一字一句変えていません

どうか傳兵衛さんを  
皆さんの記憶に留めて下さい

西尾市在住の画家

齋藤吾朗

私は小さい頃に  
自分の父親から  
三河鉄道はえらい人が  
作ったんだぞと教えられました

二代目傳兵衛さんは  
松木島から吉良まで  
線路を引いてくれました



G・SAITO

神谷駅は本当に素敵な建物でした

私の所には傳兵衛さんの  
亡くなった時の新聞が  
残っていました

私は傳兵衛さんの事を  
次の世代に繋げて  
いかなくはならないと  
思いました

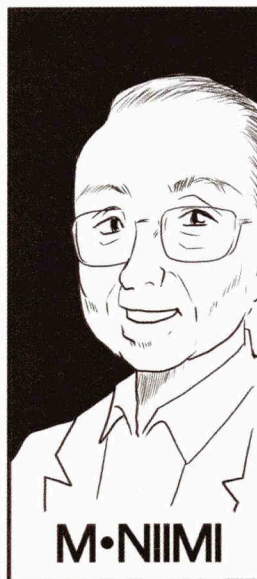
復刻本  
編集者

大橋純也

名古屋鉄道OB

新實守

三河鉄道が開業してすぐに  
社長の久保扶桑が死んでしまいました



M・NIIMI

傳兵衛にとってそれは  
空前絶後の事態だったと思います

当時赤字だった  
三河鉄道を立て直す為に  
東京から車で当地を訪ねました

企業のトップがこんな田舎に  
62回も来ますか？

私はそれを知り涙が出ました  
こんなトップに仕えたかった

式典での登壇がない為、後日話を伺ったところ  
傳兵衛さんの件で自分がこんなに熱くなった事は  
今までに無かったとのコメントを頂きました



J・OHASHI



味岡源太郎は  
完成した神谷傳兵衛の本を  
愛知県下の小中学校に  
また県下の図書館にも  
たくさん寄贈した



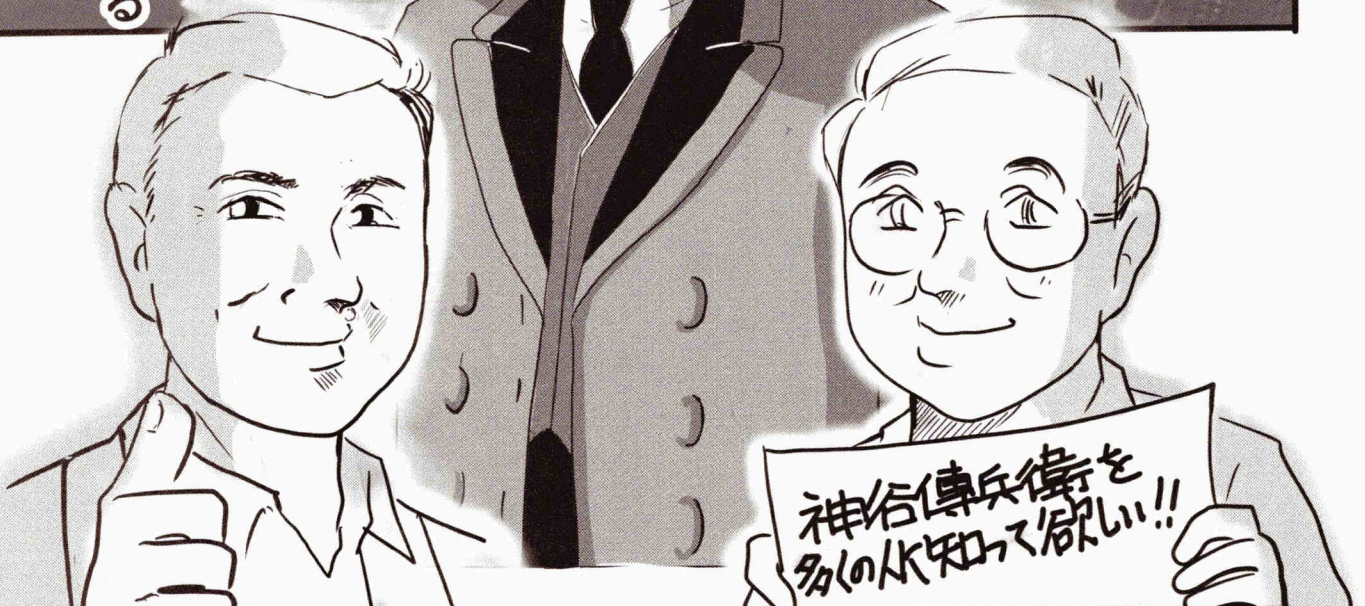
神谷傳兵衛という人を知り  
子供達が自分の将来の  
キャリアモデルを考える  
キッカケになってくれれば  
という願いを込めて



この刈谷市でも

神谷傳兵衛の偉業を  
多くの人に知って欲しいと

傳兵衛の功績を学び  
更には先人の偉業を  
次の世代に伝えようとする  
有志達が立ち上がった



神谷傳兵衛を  
多くの人に知って欲しい!!

子ども こと つた 子供たちにも神谷傳兵衛の事を伝えたい!!



かみやでんべえ  
神谷傳兵衛は

かんきょうにも負けず  
どんな環境にも負けず

つねどりよく  
常に努力を怠らず

こうどうりよく  
行動力と慈愛を備え

たくさん  
沢山の事を成し遂げた

そして

わたし  
私たちにたくさんの  
レールを残していった

そのレールは

いまわたし  
今も私たちの身近な場所  
で

いきつづけています  
生き続けています

わたし  
私たちの未来に繋がっている

そのレールは  
あなたの後にも続いて行く

どうかそのことを

わす  
忘れないで欲しい

みかわ  
三河を愛する皆さんへ

つぎ  
次の世代の皆さんへ

終



# いつまでも情報が完結しない!! どうする傳兵衛さん!



## 先祖が藤原鎌足

十代の頃村で劇をやり  
若い娘にモテた

女人に化けた悪魔の誘惑には勝っても  
株の投資には負けた

## 身体から針が出てきた

傳兵衛が東京土産に母親イシ  
に贈ったものは  
革布団 手袋 手風琴だが  
流石に手風琴  
(アコーディオン)は  
どうかと思う



贅沢  
するなよ

「神谷は、金銭には縁のある人だが  
女と子供とには縁の薄き不幸の人である」

「一変して膨れ面の色黒く、  
肥満したる力士のような男振り」  
坂本箕山は時々文章の中で  
傳兵衛を軽くデスっている

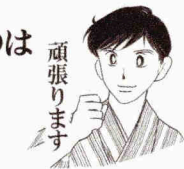


おなか  
が  
すいた

北海道でジャガイモ栽培がさかんなのは  
傳兵衛が持ち込んだ神谷芋が発端

## 無水アルコールを発明した

にがり酒の付いた着物を着て行き  
同伴の武士の兄の姿と比べられ  
見合い相手に断られた



頑張り  
ます

静岡県可睡斎護国塔  
(日露戦争の犠牲者を記るために  
建設された塔)への寄贈額が  
政治家 大手企業役員  
貴族院を抜いて  
傳兵衛が断トツトップ



決心  
した!



ありが  
とう

蜂印香竄葡萄酒  
国内外での品評会に25回受賞



神!

自分は病人だの  
老人だのと  
ぼやいていた



勉強熱心!

本当は自動車には乗りたくない  
(人を轢いたら嫌だから)

商売繁盛の秘訣(勤勉を  
守らない時は  
看板を下げて貰いますと言って  
看板の字を書いていた(守田治兵衛)



明治時代に書かれた看板

## 日本で初めて「化学」という 言葉を使った人物 (宇都宮三郎)

明治25年  
全国の神谷姓の人を  
集めて豊田市の幸福寺で  
高祖祭を行なった  
(宇都宮三郎)



エクセレント!

## 昭和初期近藤利兵衛商店は 森永や明治製菓 ライオン等 有名企業と肩を並べる 勢いがあった

傳兵衛と近藤利兵衛の  
墓のある場所は徳川慶喜や  
渋沢栄一等有名人の墓が多く  
神聖な墓所として訪れる人も多い



## 大正時代 東京千疋屋の隣に 近藤利兵衛商店の 蜂ブドー本舗があった

香竄葡萄酒の偽物が出回り  
品質保証書を付けた  
さらにはその保証書が  
真似出来ないよう  
明治25年八月から  
すかしを入れた紙にした  
さらには明治41年五月から  
葡萄酒の瓶の蓋を  
改良して偽物対策をした  
(近藤利兵衛)



任  
せて!

蜂印香竄葡萄酒の看板  
当時商売繁盛のご利益があると  
噂の高い書家守田治兵衛  
に依頼していた  
(近藤利兵衛)



推  
し!

# 神谷傳兵衛

# 検索

も一れつ休みたい





ほおずき  
作者紹介 鬼灯つばめ

公益社団法人日本漫画家協会会員  
漫画家協会中部ブロック代表・参与  
漫画家/納棺師

納棺師として約20年間で一万体近い  
故人の納棺死化粧修復に携わる。  
2017年事故で納棺師の現場に立てず、  
一年半のリハビリの間に描いた漫画で  
漫画家協会に入会、漫画家となる。



漫画制作にあたり、ご協力頂きました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。  
ありがとうございました。(鬼灯つばめ)

現在も事故後遺症を抱えながら  
フリーの納棺師として  
西三河、知多半島で活動している。

東海市コミュニティエフエム  
メディアスエフエムに  
三カ月に一度登場する  
ラジオパーソナリティ。

# 神谷傳兵衛

語り継ぐ三河の偉人の物語

復刻本「神谷傳兵衛」著者 坂本箕山 より

作画 鬼灯つばめ

発行日 令和4年 9月4日

© 鬼灯つばめ





令和4年度かりや夢ファン্ড採択事業  
神谷傳兵衛没後100年記念事業

## 神谷傳兵衛と刈谷の発展史

主催 傳兵衛クラブ刈谷

後援 刈谷市 刈谷市教育委員会  
刈谷商工会議所 中日新聞社